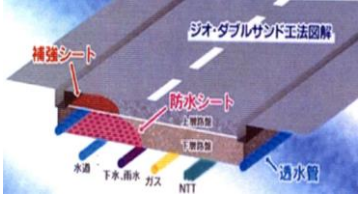
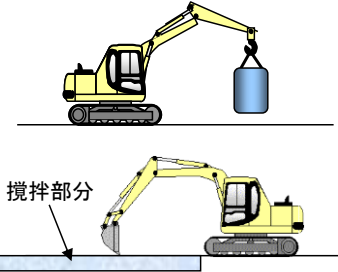
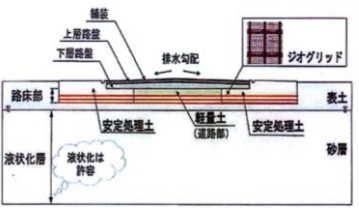

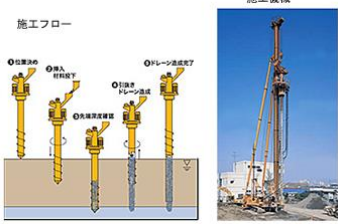


工法比較表(説明用)

技術名 : ジオダブルサンド工法(GDS工法)

ジオダブルサンド工法研究会

	新技術 ジオダブルサンド工法	従来技術 混合処理工法	新技術 タフロード工法	従来技術 D box工法	従来技術 グラベルドレーン工法
工法概要	本技術は上層部の補強シート、下層部の防水シート、透水管にて構成され自然のエネルギーを受けて流す全く新しい免震・液状化軽減工法である。	石灰、またはセメント系の粉末材料を地盤に混入して攪拌し固結する工法である。従って剛構造となる。透水管はなし。	本技術は路床部にジオグリッドを三層に敷設かつ安定処理し道路中央部分を軽量度にて上載荷重を軽減し、道路直下の地盤移動を防止する。	本技術は路床部に再生砕石を詰めた土のうのような袋を敷設して、地震時の揺れに伴う地盤の動きを拘束して液状化の発生を防止する。	本技術は地中に透水性の高い採石パイルを造成し、地震時に発生する繰り返しせん断を防ぎ、間隙水圧を消散させる工法。
概略図					
経済性	(材工共) 5,600 円/m ²	6,000 円/m ²	12,000 円/m ²	10,000 円/m ²	22,900 円/m ²
評価	◎	○	○	○	-
工程・工期	・設備が不要の為いつでも施工できる。・工期の大幅な短縮化を図れる。	・天候に左右される。・設備の移動コストが掛る。・工期が必要。	・安定処理工、軽量土の搬入、ジオグリッドの敷設があり工期が必要。	・通常の道路構造に土のう袋を敷設する分だけ、工期が余分に掛かる。	・設備の移動コストがかかる。工期を大きく要する。
評価	◎	-	○	○	○
品質	地下埋設物に不具合が発生した場合、部分補修が出来る。	・地下埋設物には壊して対応する以外無理。・大地震には一回のみ対応。	・地下埋設物に対しては煩雑な対応となり噴砂は何れかで起こる。	・地下埋設物には撤去して対応する以外は無理。	・地下埋設物のある所には不向き。
評価	◎	-	○	○	○
出来形	・出来形管理図表・測定結果一覧表。・撮影記録による出来形管理。	・出来形管理図表・測定結果一覧表。・撮影記録による出来形管理。	・出来形管理図表・測定結果一覧表。・撮影記録による出来形管理。	・出来形管理図表・測定結果一覧表。・撮影記録による出来形管理。	・出来形管理図表・測定結果一覧表・撮影記録による出来形管理。
評価	◎	○	◎	○	○
現場条件	・バックホウの入るスペースがあること。	・プラント、バックホウの設置出来る広いスペースが必要。	・別に安定処理のスペースが必要となる。	・別の場所に再生砕石を詰込む場所が必要となる。	広い設備ヤードを必要とする。
評価	◎	○	○	○	◎
設計条件	・地質、及び地下埋設物に対する効果的な敷設位置の打ち合わせが必要。	・軟弱地盤のみ対応。厚さは層厚により決定する。	・地下埋設物のあるところには検討を要する。	・地下埋設物のあるところには不向きである。敷設位置の検討。	・軟弱地盤には効果あり。
評価	◎	○	○	○	○
安全性	・設備が不要な為、安全な作業環境。	・設備ヤードの環境に注意する。	・設備ヤードの環境に注意する。	・設備ヤードの環境に注意する。	・設備ヤードの環境に注意する。
評価	◎	○	○	○	○
開発者	(株)茜谷	小野田ケミコ	(株)大林組	シン建工業(株)	鴻池組
備考	・ジオダブルサンド工法では透水管が最大の特徴である。低コストで広範囲にわたる施工を可能にした技術である。柔構造。部分補修可能。	・地下埋設物に不具合が発生したときは壊して補修しなければならない。	・地下埋設物に不具合が発生した場合の対応を考慮しておく必要がある。	・地下埋設物に不具合が発生したときは壊して補修しなければならない。剛構造であり復旧作業に難点。	・地下埋設物のある所の施工には不向き。
総合評価	◎	○	○	○	○